



国指定・天然記念物
鹽竈神社の鹽竈ザクラ

他の桜より花期が遅く、薄紅色の手鞠のような花を付けます。めしべが変化して2〜3枚の葉となります。都人あこがれの桜といわれ、鹽竈神社境内のものは天然記念物に指定されています。

堀河天皇御製

あけくれに さぞな愛で見む 塩竈の
桜の本に 海人のかくれや



①鹽竈神社

一森山に鎮座する鹽竈神社は、東北鎮護、奥州一宮として千年以上の歴史を誇り、全国から多くの信仰を集めています。現在の社殿は、宝永元年(1704)のもので、国指定・重要文化財となっています。鹽竈桜が咲く境内から望む千賀の浦(松島湾)は絶景です。



②帆手祭(3月10日)
花祭(4月第4日曜日)

帆手祭は、天和2年(1682)から続く火伏せの祭です。花祭りは、安永7年(1778)から続く天候を祈る祭です。これらの祭では、日本三大荒神輿の一つといわれる1tの大神輿が市内を巡ります。最大の見所は、202段の表坂を出御・還御されるときで、その緊迫感には息を吞みます。



③旧亀井邸

東北を代表する総合商社カメイ(株)の初代社長によって、大正13年に同社の迎賓館として建てられました。和洋併置式住宅で、みなとまち塩竈の隆盛を象徴する貴重な建物です。現在、市が管理し、同邸の魅力を生かした市民活動やイベントなどに活用されています。



地酒のまち



寛延元年(1748)には13軒もの酒屋があり、観光地としての消費と浜方の漁師酒としての移出が多量にあったといわれています。今も残る蔵元は、代々鹽竈神社の御神酒を醸造してきました。それぞれが醸す地酒は、日本を代表する銘酒として高い評価を得ています。



スイーツ
のまち



日本各地で軟落雁を「しおがま」と称しますが、元は江戸時代の塩竈の土産品であった南京糖に由来するといわれています。塩竈は、観光地であることから沢山の銘菓が生まれてきました。近年、藻塩を生かした創作的な和洋菓子づくりも盛んに行われています。



寿司のまち



塩竈は、1平方kmあたりの寿司屋の数が国内有数の「寿司のまち」です。職人技が冴えるその寿司は、宮城のおいしい米と仙台湾近海の四季折々の新鮮な魚介類、三陸沖から水揚げされる生マグロなど、「魚のまち」ならではの一品です。



④三陸塩竈
ひがしもの



秋口から初冬にかけて塩竈市魚市場には、三陸沖で捕れた天然で新鮮な生のメバチマグロが水揚げされます。その中で「鮮度」、「色つや」、「脂ののり」「旨み」に優れ、魚市場の日本一の目引き(仲買人)の目にかなったものだけに付けられる極上のブランド名です。



塩竈地域資源マップ



生産日本一の
⑤かまぼこ



塩竈は、全国屈指の水揚げ高を誇る「魚のまち」です。そして、水産練り製品生産日本一の座を長く守り続けている「かまぼこのまち」です。揚げかまぼこや笹かまぼこなど、厳選された新鮮な素材を丹念に練り込んだ、おいさと真心の逸品が揃っています。



藻塩のまち



まちづくりグループが、御釜神社に神事として伝わる古代の製塩法を用いて、「藻塩」を蘇らせました。ミネラルが豊富なため、旨みが効いたまろやかな味です。お菓子ははじめ、アクセサリなど、様々な分野でこの藻塩を使った商品開発が進められています。



東北有数の
⑥みなとまち

奈良時代に国府多賀城の港(国府津)として始まる日本屈指の古い港です。特定重要港湾としての商港、三陸漁場を臨む日本有数の漁港、日本三景松島の玄関口である観光港、第二管区海上保安本部のある港など、4つの顔を持っています。



日本三大船祭
⑦塩竈みなと祭

塩竈みなと祭は、海の日(7月第3月曜日)に開催される日本三大船祭の一つです。二隻の御座船に鹽竈神社、志波彦神社の大神輿を奉安し、数多くの供奉船を従えて松島湾を渡御する様は、平安絵巻そのものです。普段は、御座船を港奥部で見ることができます。



塩竈石

明治から昭和前半にかけ、市内の丘陵から切り出された凝灰岩です。耐火性に優れていたことから宮沢賢治の生家の蔵にも使用されるなど、東北各地で珍重されました。今も市内には、塩竈石を用いた店舗や蔵が数多く残されており、独特の佇まいを見せてくれます。



文学のみち

海と社を結ぶ道筋に、塩竈ゆかりの文学碑が建立されています。宮沢賢治の作品をはじめ近代文学の「シオモの小径」。『おくのほそ道』など古代から近世文学の「鹽竈海道」。戦後日本を代表する俳人、佐藤鬼房の「鬼房小径」があり、文学愛好者が多数訪れています。



日本三景松島に浮かぶ
浦戸諸島

松島湾に浮かぶ島々の多くを占める浦戸諸島には、有名な仁王島をはじめ、4つの穴の開いた鐘島や大藻根島など、不思議な形をした美しい小島が数多く点在しています。まさに自然が創り出した日本庭園そのもので、都人があこがれた「塩竈の海景色」そのものです。



景観とレジャーの
① 桂 島

塩竈に最も近い島(地区)で、白崎山、二度森、西の山、観月崎などの展望台を巡るハイキングコースがあり、セービングや仁王島、泉ヶ岳まで眺めることができます。また、お洒落なペンションもあり、マリンスポーツなどを楽しむことのできるレジャーの中心地です。



最上等級
浦戸の海苔
のりた

毎年、鹽竈神社には宮城県産乾海苔が奉納され、品評会が開催されています。最高賞のものは 皇室にも献上されます。この栄誉を目指し、秋から春先にかけての湾内では、色、艶、香り、味とも最高の浦戸産最上等級海苔が生産されています。



とっておきの
島体験

3つの海水浴場と豊かな自然を有する浦戸は、マリリジャーや体験学習の宝庫です。海水浴や釣りはもちろん、パラセーリングやシーカヤックなどのマリンスポーツ、夜光虫観察や地引網、園芸活動、自然散策、牡蠣むき・海苔すきなど、四季を通じて体験できます。



島の夏祭り
花火大会

島の花火師が、一発一発、想いを込めて打ち上げます。頭上で花開き、松島湾一帯に響きわたる花火は圧巻です。夏の夕暮れの何ともいえない懐かしさと、島の優しさを体感することができます。
桂 島:8月13日開催
野々島:8月14日開催



美味しい
浦戸の牡蠣
かきたん

浦戸の豊かな海で1~2年の間じっくり大きく育った牡蠣は、生でも焼いてもおいしくいただけます！また、浦戸産の種牡蠣は、成長が早く味も良いことから、広島や三重など国内の特産地にも出荷されています。かつてはフランスにも輸出されていました。

浦戸地域資源マップ



明治時代を支えた
② 石 浜(桂島)

明治元年、榎本武揚、土方歳三らの幕府艦隊が、函館五稜郭へ向かう途中に艦を休めた寄港地であり、明治から大正時代にかけて県内有数の商港として栄えました。また、塩竈築港に大きな功績を残した白石廣造邸跡があり、明治時代の足跡を訪ねることができます。



③フラワーアイランド

野々島を花でいっぱいにするため、市民団体によって取り組まれています。四季折々に可憐な花が咲き誇りますが、特に7月中旬からは、ラベンダーが一面に広がります。また、花の摘み取り体験やブルーベリーの収穫など、市民向けの体験事業も行われています。



交流拠点
⑥ 野々島

明治時代のラッコ船の秘話や密貿易で巨万の富を蓄えた内海長者の伝説が残されています。島のいたるところにボラと呼ばれる洞窟や、椿のトンネルの小径があります。また、浦戸諸島開発総合センターや浦戸第二小学校・浦戸中学校があり、交流の拠点となっています。



菜の花彩る
④ 朴 島



この地では珍しいタブ林があり、春には菜の花で彩られます。また、地名の由来は、昔、鳳凰が住んでいた鳳凰島、奈良・平安時代に烽火(のろし)をあげた烽火島、仙台藩の軍用金や宝物が隠された宝島が転じたなど、さまざまな謎とロマンに満ちた島です。



日本人初の世界一周
津太夫・左平

1793年、浦戸近在の16名が乗り組む若宮丸は、悪天候で遭難し、翌年、アリューシャン列島に漂着。ロシア皇帝に謁見後、寒風沢出身の津太夫、左平ら4人は、ロシア船で大西洋と太平洋を横断し1804年に帰国。彼らの見聞は、その後日本の世界認識に大きく寄与しました。



高品質
浦戸の海藻



浦戸諸島では、外洋から閉鎖された穏やかな海を利用して高品質のわかめや昆布の養殖が行われています。以前は、三陸産として出荷されていましたが、海苔や牡蠣とともに「うらと海の子」のイメージキャラクターを作成し、浦戸海産物のブランド化が進められています。



歴史薫る
⑤ 寒風沢

江戸時代に仙台藩の江戸廻米の港として栄え、幕末には日本初の西洋式軍艦「開成丸」も建造されました。当時の繁栄を伝える十二支方角石や縛り地蔵、砲台跡などがあり、歴史散策が楽しめます。また東部には水田が広がり、伝統農法で「浦戸米」が耕作されています。



島全体が植物園
浦戸の自然

離島であるために手つかずの自然が残る浦戸諸島は、島全体が植物園です。また、変化に富んだ地形から独自の生態系があり、松島を代表する松林、タブやツバキなどの暖帯性植物、多彩な海岸性植物など、多様な植物を四季を通して観察することができます。